



医療法人 良秀会

RYOSHUKAI

2019.7

介護老人保健施設「華」

新しく10台のエアマットの運用を開始!

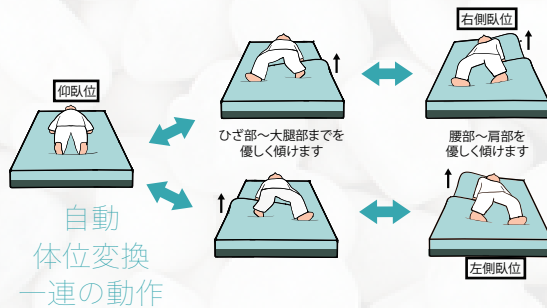
利用者さまの快適性向上と介護職員の労働環境改善を目的に、介護老人保健施設「華」では新たに10台、自動体位変換機能を備えたエアマットの運用を開始しました。新しいエアマットの大きな特徴は自動で優しく利用者さまの体位変換を行う機能を備えていることです。



エアマットが自動で体位変換

今回導入したエアマットは、体位変換を自動で行います。利用者さまそれぞれの異なる身体状況に応じてあらかじめ設定した時間や角度で、マット自体が形状を変えながら静かに利用者さまの寝ている姿勢を変えてくれます。

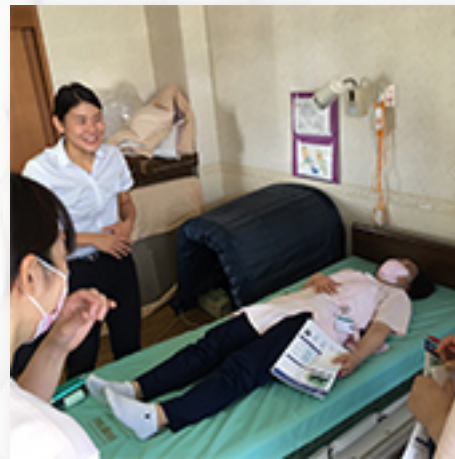
ケアが標準化されるので、常に最適な体位変換ケアを利用者さまへ提供・介護職員は負担なく利用者さまの身体状況確認に集中できるようになります。



操作の実践トレーニング

自動制御なのでボタン一つで操作できますが、利用者さまの身体状況に適合させて使用効果を引き出すには、介護職員が知識を学ぶ必要があります。

今回はメーカーの株式会社モルテンさまにご協力をいただき、現場での製品使用トレーニングを実施しました。製品の基本構造や操作方法を学んだ後、**利用者さまおひとりずつ身体状況の評価を行いながら、ベストな設定を選択するための実践的なトレーニング**です。全職員が受講できるよう、数回に分けて実施して下さったモルテンさまには大変感謝しております。



就寝中の体位変換とは

障害のない方は、就寝中に自分の力で寝返りを打ち快適な状態をコントロールできますが、介護度が高い利用者さまの場合は、この動作ができません。そのため介護者が、昼夜を通して**約90～120分おきに寝ている姿勢を変える**必要があります。これを体位変換といいます。

メリット

- ・身体の特定位位にかかる圧迫やずれの除去
- ・関節不動による苦痛改善
- ・発汗によるむれの除去
- ・内臓機能の補助

デメリット

- ・夜間の体位交換が利用者さまの睡眠の妨げとなり、眠りの質を下げる
- ・介護者の技術レベルによって体位変換の効果が差が生じる
- ・繰り返しの体位変換ケアによって、介護者が肩や腰を痛めてしまう

良秀会では、利用者さまのQOLが高まり、職員も安全に活躍できる環境をつくるために、このような機器の導入を積極的に進めて参ります。